

津山の城と城下町を造ったのは、森忠政。その姓は当然「森」です。しかし一時期、忠政はもう1つの姓を名乗っていました。

「森」の姓は、相模国森庄(神奈川県厚木市)に由来する、鎌倉時代以来の由緒ある姓なのですが、豊臣秀吉に仕えていた時期の忠政は、森姓ではなく羽柴姓を使っていました。江戸時代の大名の家譜をまとめた『寛政重修諸家譜』の記録では、天正15年(1587)2月6日に、忠政は従四位下侍従となり、羽柴の姓を与えられたとあります。

これは、忠政が豊臣秀吉の家臣として有力な地位に在ることを示しており、池田などほかの有力大名も羽柴姓を与えられています。ちなみに、江戸時代には將軍家とつながりのある有力大名は、徳川家ゆかりの松平姓を与えられていました。

羽柴姓を与えられた忠政は、書簡などの通常の文書では「羽柴右近」と称していました。これは柴を略して「羽右近」ということもあります。官職としては、より上位の侍従になっていたのですが、長年使用している右近を使ったものと思われず。

忠政が羽柴姓を用いるのは、秀吉との主従関係がもととなっています。慶長3年(1598)に秀吉が亡くなったのですが、豊臣家は主家として存続していたので、忠政は羽柴姓を使っていました。

慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いには、忠政は徳川家康の東軍に属しています。このときに、羽柴姓を捨てたのでしょうか。いいえ、やはり羽柴姓を使っていました。徳川秀忠ですら、頻りに送った書状の中で、忠政へのあて名に羽柴右近を用いていました。これは、関ヶ原の戦が豊臣

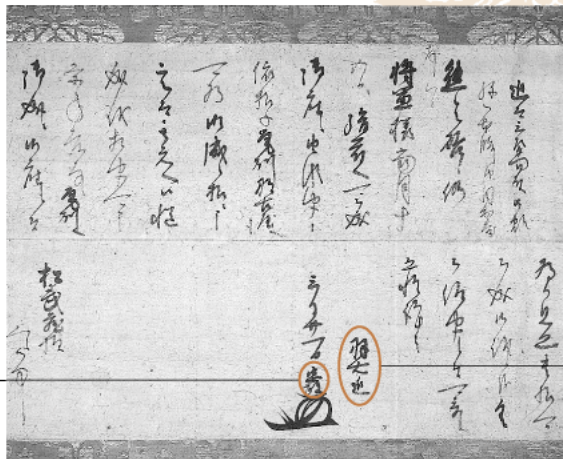
津山城百聞録

～羽柴忠政から森忠政へ～

家を否定するものではなかったことを示しています。ただ、興味深いのは徳川家康は忠政への書状で「川中島侍従」をあて名として用いており、羽柴姓を用いませんでした。

慶長19年(1614)に始まった大坂の陣は、豊臣家と徳川幕府の戦いなので、明らかに豊臣家を否定することになるのですが、この陣中でもやはり羽柴右近が用いられています。結局、羽柴姓が用いられなくなるのは、陣の最後に豊臣秀頼が自決し、豊臣家が滅亡してからのということになります。

忠政の姓にまつわる小さな問題ですが、秀吉の死から大坂の陣まで、徳川の天下が名実ともに完成するには、長い時間が必要であったことがわかります。



森忠政書簡(慶長17年)羽右近忠政と署名している

羽右近

忠政

つやま 広報 12月



車いす駅伝で(e)さんは中国語の通訳ボランティアをしていました。私もベラベラと... となるにはあと20年はかかるかな。体育会系?の私はカメラ片手に撮影・取材のボランティア。寒空で熱い競走をパチリ。(鉄)



元旦といえば初日の出。「津山の初日の出といえば黒沢山」と思っていたのですが「声ヶ岬や岩屋城からもいい初日の出が見えるよ〜!」と教えてもらいました。寒空に慣れた(鉄)さん、(X)さん、パチリといかが? (e)



つぶやき

編集室

感涙! トランペット奏者 ニコラス・ペイトンのジャズライブ。彼の故郷で、いまなおハリケーン災禍にあるニューオーリンズの復興支援も兼ねたこの公演。震える郷土愛に満ちた魂に圧倒されました。音楽ってすごい! (X)



10月中のひとの動き

人口	111,446人(前月比△26)
男	53,187人(同±0)
女	58,259人(同△26)
世帯	42,991世帯(同+33)
転入	217人
転出	233人
出生	87人
死亡	97人

(11月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



編集・発行(毎月10日発行)

津山市企画部行政広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

